

The Whisper from Amherst

エミリーのささやき

エミリーの詩を読んでいると、エミリーと共に世界中を旅している気分になります。マサチューセッツ州から出たことがないエミリーが、地理に関してどれだけたくさんの知識を書物から得たのか測り知れません。

Hemlockという植物をドクゼリと訳した訳者もいますが、地名と季節から想像するに、野草というよりは、北の地にそびえる常緑樹「榿(つが)の木」のほうがしっくりいくような気がして、東雄一郎先生の訳を使わせていただきました。北の地に冬の北風の中、繁茂する榿はエミリーの父に代表される北国の人々。

それに対して、砂漠や中国の南部のような真逆の気候で生きる人々。その世界観がエミリーの好奇心を掻き立てたのだと思います。

'I think the Hemlock likes to stand'

**I think the Hemlock likes to stand
Upon a Marge of Snow-
It suits his own Austerity-
And satisfies an awe**

**That men, must slake in Wilderness-
And in the Desert-cloy-
An instinct for the Hoar, the Bald-
Lapland's-necessity-**

**The Hemlock's nature thrives-on cold-
The Gnash of Northern winds
Is sweetest nutriment-to him-
His best Norwegian Wines-**

**To satin Races-he is naught-
But Children on the Don,
Beneath his Tabernacles, play,
And Dnieper Wrestlers, run.**

榿の木は雪の端に
立つのが好き、そう思う
それが厳格な榿の木らしい佇まい
畏敬の念を満たすもの

荒野では人が和らげねばならず
砂漠ではうんざりするほど味わう
白いものや、むきだしのものへの直感は
北欧、ラップランドには欠かせない

榿の木の特性は寒冷地で繁茂すること
ギリギリ身体に食い入るような北風が
榿の木には最高の滋養
それが彼の最高のノルウェーワイン

サテンの人々に、榿は無意味
でもドン川の子どもたちは
榿の木が結ぶ幕屋の下で遊び
ドニエプル川の激流がぶつかり走る